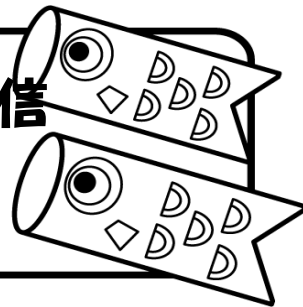


# 青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和8年度 第246号 5月1日  
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



今年度の保小中の重点目標を保育園長、小中学校長にお伺いしました。



## 🌸 令和8年度 青木村保育園の 保育目標と新たな取り組みについて

園長 成沢 亮子

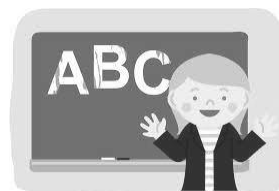
青木村保育園長の成沢亮子と申します。本年度も引き続きよろしくお願  
いいたします。

令和8年度の園児数は、104名（年長児29名、年中児31名、年少児  
21名、未満児23名）からのスタートとなっています。このうち17名  
のお子さんが新たに入園し、未満児における年度の途中入所児は5名を予  
定しています。本年度は0歳児ひよこぐみの人数が減る事から今までアンパンマンのお部  
屋を活用していた一時保育をひよこぐみのお部屋で共有する事といたしました。更にアンパ  
ンマンのお部屋は、令和8年度から制度化された「こども誰でも通園制度」に対応す  
るお部屋となりました。



さて、令和8年度は、新規事業が4つ予定されています。

1つ目は、保小中一貫教育の中でアチーブゴールド社によるALT  
派遣が行われるものです。中学校に1名、小学校に2名、保育園に1  
名を常勤としてお迎えすることとなりました。保育園にお迎えする



延長保育前にメルナ先生に絵本の  
読み聞かせをしていただきます。

1名については、園児たちと日常生活を共にすることで、日常的に  
英語に接する機会を設けることをねらいとします。普段は年長クラ  
スに入って活動に参加して下さいます。教育委員会の重点にある多  
様な他者や自然とのかかわりにもつながる位置づけにもなるかと  
思います。

2つ目は、ドキュメンテーションお便りの配信です。従来のも  
1回のクラス便りに変わり、保育における子どもたちの姿を少し  
でも多くお伝えできる事をねらいとし、月に何回か保育活動を中心に配信を行っていき  
ます。園での子どもたちの姿をご覧いただきながらより保育園を身近に感じていた  
だける機会となるよう活用していきたいと考えております。



入園式翌週の4月6日（月）。園庭の桜の花が満開です。赤い帽子的年中さん。青い帽子的年長さん。午後3時のおやつの後、子どもたちが入り乱れて桜満開の下で遊びます。

年長ぐみと年中ぐみは、桜をみながらさっそくお花見給食もしましたよ。

3つ目は、未満児保育料における副食費相当分の補助事業についてです。3歳以上児副食費無償化を拡大し現在保育料を納めているご家庭について軽減補助を行うものとなります。



そして4つ目は、冒頭でもお伝えしました「こども誰でも通園制度」になります。これら新規事業を含め青木村独自の家庭支援とよりご家庭との連携を深めていかれるよう、取り組んで参りたいと思います。



また、小・中・地域連携、早期支援たんときっずとの連携を含め本年度も青木村保育園の特色を活かし、“笑顔あふれる保育園”～遊びに挑戦する子どもたち～（保育目標）に努めて参りたいと思います。地域の皆様に見守られ多くの他者と育む体験を日々大事にしながら、心豊かな成長を見守っていきたく思います。本年度も皆様のお力添えをお願いいたします。

最後になりますが、元気いっぱいのおおきっ子たちの姿が本年度も「信州やまほいく」ホームページへ随時掲載されますので、村民の皆様もおおきっ子の四季折々のかわいい姿をご覧ください。



みんな大好き、おおきっ子広場！！



## 令和8年度 青木小学校学校運営の重点

校長 直江 将志

本年度より、青木小学校の校長としてお世話になります、直江 将志（なおえ まさし）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は、34名の新入生を迎え、全校児童179名となりました。学校教育目標『あかるい子 かしこい子 たくましい子』の具現に向け、子どもたちと活動をスタートさせたところです。青木小学校が、子どもたちにとって安心して学べ、居心地のよい学校となること、安心して自分を表現し“私ならでは”がより一層際立てるようにするための学校づくりを、すべての職員が一丸となり



目指してまいります。地域の皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

以下、学校教育目標ならびに重点について述べさせていただきます。

本年度の学校運営を「あおきっ子の育ちの木」としてイメージします。



木の育ちには、まず子どもたちがしっかりと「根」を伸ばし、「幹」を太くしていく営みが必要です。

やがて、育ちの木は、芽を出し、蕾になり、花が咲きます。実を結ぶときは人それぞれかもしれませんが、子どもたち一人ひとりのプロセスを大

事にしていきたいと考えています。




### (1) “3つの根っこ” と “もう一つの根っこ” を伸ばす

○あかるい子 ～思い合いの根っこ～  
お互いを尊重し、相手の思いを感じ取ろうとする根っこを伸ばす

○かしこい子 ～学び合いの根っこ～  
「なぜ」「どうして」を大切に、一人でもみんなとでもとことん追究していく根っこを伸ばす

○たくましい子 ～関わり合いの根っこ～  
中核活動から生まれる出会い（出会い）を大切に、自ら他者（ひと）と関わろうとする根っこを伸ばす

○ひとりだちへと向かう子 ～自らを振り返る根っこ～  
日々の自分を見つめ、言動やかかわりがどうだったのかを振り返り、よりよい自分になろうとする根っこを伸ばす

最後の根っこは、本年度、育みたい新たな根っこです。子どもたちの学校生活において、例えば、

「算数を頑張ったから計算が得意になった。明日も頑張るぞ！」

「鉄棒が少しずつできるようになった。次はもっと挑戦してみよう」



「今日はいろいろして友だちにきつく当たっちゃったな。明日はごめんなさいって言って、仲直りしよう」

からのスタートでよいと思います。このように自分を振り返り、一歩ずつ成長して自立していける子の育成を目指します。



### (2) 幹を太くしていく

幹を太くしていくためには、日々の授業づくりと学級の中核活動が大切になると考えています。



## ○日々の授業づくり

教師主導ではなく、子どもたちが何をどう学ぶのかを大切にしたい学びをつくりあげ、自らの言葉で考えを表現することを大切にします。

## ○学級の中核活動の取組

子どもたちの「素朴な問い」や「やってみたい」という意欲を学級の中核となる活動とし、一人ひとりの学びを深めてまいります。

これらを実現するため、職員も一丸となって授業づくりに取り組みます。

そこで、本年度、本校が目指す授業は、

**自ら問いを立て、友と協働しながら、「できた」と「わかった」を実感できる授業づくり**です。全職員で、子どもたちが主役となる学びを作り上げてまいります。



## (3) 花を咲かせるために・・・

花を咲かせるためには、肥沃な土、清らかな水、そして光が必要です。それは、子どもたちにとって、子どもを見守り、子どもに期待を寄せる地域や保護者の皆様とのつながりと、日々かかわり子どもと暮らしをつくる教師の眼差しに他なりません。そこで、多様な価値観をもった地域の方とのかかわりについて、本年度も夢のお仕事ゼミ、地域講師を積極的に登用したクラブ活動に取り組んでいきます。



「地域の子は地域で育てる」と言われます。保護者、地域の皆様、学校が互いに関心を寄せ合い、「チーム青木小」として、子どもたちのための取組ができれば幸いです。様々な学校行事への参加はもちろんのこと、日常、学校にもお立ち寄りいただき、子どもたちのことをお話できればと考えております。子どもたちをよろしく願いいたします。



## 🌸 令和8年度 青木中学校教育活動の重点

校長 千野 布美子

### 1. 新年度のご挨拶：「生徒にとって」をすべての出発点に

昨年度より青木中学校の校長としてお世話になっております、千野布美子です。本年度は20名の新入生を迎え、全校生徒76名でスタートいたしました。

本年度、私たちが大切にしたいキーワードは「生徒にとって」です。生徒の視点から学校がどう見えるか、どう感じるかという問いをすべての活動



の出発点に据えます。今年度も全学年で複数担任制を継続し、より一層強固なチーム体制で、生徒一人ひとりが「自分は自分でいい」と安心していただける居場所を創ってまいります。

## 2. 最重点：グランドデザインの刷新と地域に学ぶ「わたしの生き方探究」

本年度の重点目標を策定するにあたり、職員が主体となってチームを組織し、これからの青木中学校が進む道を議論してまいりました。その一環としてグランドデザインを刷新いたしました。

### ①「一河三山の図」の根底を流れる精神

刷新したグランドデザインの軸には、青木村の豊かな風土を象徴する「一河三山の図」を据えました。

その根底には、青木村の教育で大切にしている「インクルーシブ教育」が流れています。これは「全ての生徒にとって、居心地がよく、自分らしくいられる場所」を創るという決意です。また、五島慶太翁の精神や青木村に息づく義民の心を学ぶ機会の充実を図ります。

### ②伝統ある活動の「意味と価値」を問い直す

新しいことを追加するのではなく、青木中が築いてきた伝統ある教育活動の一つひとつを、今一度「生徒にとって」の視点から見つめ直します。活動の本来の意味と価値を再度問い直し、本質を見極めることで、伝統を持続可能な学びへと昇華させてまいります。



### ③小中連携によるカリキュラムの創造

今年度から長野県教育委員会の「地域に学ぶ『わたしの生き方探究』実践校」の研究指定校となりました。「村の宝」である子どもたちの9年間の成長を見据え、小学校との連携を密にした一貫性のあるカリキュラム作りを推進します。「総合的な学習の時間」のカリキュラムを見直すことで、地域社会の中での問いを立て、自分なりの納得解を見つける探究活動を深化させ、村の教育目標である「社会力」の育成を目指します。

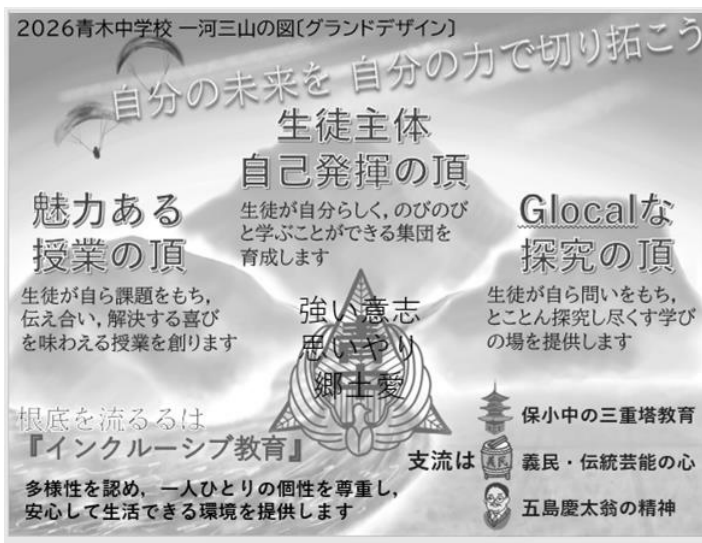
## 3. 「アイリスタイム」の始動：夢中になれる場と地域との繋がり

令和8年度より、これまでのアイリスセミナーを発展させ、新しい学びの時間「アイリスタイム」をスタートさせます。

### ①「どの子にも夢中になれる場を」

部活動の地域移行が進む中、すべての生徒が学年を越えて好きなことに没頭できるよう、日中の授業内に「課内クラブ」の時間を新設しました。

### ②「地域から学ぶことを学校の当たり前」



地域の方々の専門的な知恵や豊かな経験に日常的に触れることは、生徒が自らの生き方を考える上で欠かせない大切な探究の場となります。期間限定のイベントではなく、学校の定期的な活動として地域と共にある学びを定着させたいと考えています。

#### 4. 三つの頂を高くするアクション

三つの重点アクションを推進し、グランドデザインを具現化します。



##### ①【魅力ある授業の頂】授業のユニバーサルデザイン（UD）化

「わかる・できる」を全ての生徒が実感できるように、授業評価を指標としてUD化を推進するとともに、探究的な学びをすべての子に届けるための研究を推進してまいります。

##### ②【Glocalな探究の頂】世界とつながる体験

今年度青木村に4名のALTの先生が配置されました。中学校ではALTの先生方を積極的に活用した日常の授業に加え、5月8日には1年生が「東京グローバルゲートウェイ」での一日学習に臨みます。村の支援をいただきながら、世界へ羽ばたく好奇心を育てます。

##### ③【生徒主体自己発揮の頂】

学校教育目標「強い意志・思いやり・郷土愛」をうけ、生徒が意識し、日々の学校生活を通して達成していくことのできる具体目標として、右の5つの姿を大切にしています。青木中学校の伝統としていきたいものです。

「青木中職員3+1ポイント（挨拶・共に行う・時間厳守+温かなまなざし）」を徹底し、教師自身の人権感覚を磨くことで、生徒が自己を発揮できる環境を整えます。

実現したい5つの姿

- ①学び合い
- ②伝えよう、心の挨拶
- ③心を磨く清掃
- ④心に響く歌声
- ⑤心を耕す読書

青木中職員3+1ポイント

- ①自ら、同僚や生徒にさわやかな挨拶をする。
- ②朝の時間・清掃・給食は生徒と共に行動。
- ③授業時間・会合の時間を厳守する。 +①生徒への温かなまなざし・言葉かけ

#### 5. 結びに

生徒が失敗を恐れず、自らの可能性に気づき、強みを存分に発揮できる学校を、地域・保護者の皆様と共に創り上げてまいります。本年度も教職員一同、精一杯努めてまいります。引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



今年も新年度が始まり、気持ちも新たにあおきっ子たちをみんなで見守り、学校、保育園を応援していきましょう。

今月号と一緒に「2026年度青木村の教育」「あおきっ子教育ポイント5か条」を配布いたしましたので合わせてご覧ください。

